

メキシコ研修レポート septiembre de 2017

鈴木 萌

自己紹介

はじめまして。私はグアナフアト州と友好提携を締結している広島県からの推薦を頂き、第 45 期日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画に参加している鈴木 萌と申します。この研修レポートを通して、私がメキシコで体験したことや感じたことをお伝え出来たらと思っています。少しでもメキシコを身近に感じていただければ嬉しいです。一年間よろしくお願いいたします。

さて、今回の研修レポートではメキシコ国立自治大学と大学付属の CEPE、国立人類学博物館について紹介したいと思います。



CEPE

メキシコ到着後、メキシコ国立自治大学付属の外国語センター(CEPE)で、スペイン語の試験を受けた後、8 月下旬から毎日 CEPE に通っています。CEPE では午前中にスペイン語のクラス、午後に文化クラスが開講されており、文化クラスでは発音や作文、メキシコの美術、伝統舞踊、歴史などを学ぶことができます。

私は、午後の文化クラスで会話の授業を取っていますが、クラスは日本人 2 人とアメリカ人 1 人、ドイツ人 1 人、スイス人 1 人の少人数で構成され、アットホームな雰囲気の中勉強しています。

また、メキシコ人にとって特別な日である 9 月 16 日の独立記念日が近づくと、学内が飾り付けられたり、中庭にメキシコの伝統料理や民芸品の屋台が出たりと、CEPEの中も祝福ムードに包まれています。



メキシコ国立自治大学

CEPE はメキシコ国立自治大学 (UNAM) の一角にあります。メキシコシティ南西部郊外に位置する UNAM はラテンアメリカ最古の大学の一つです。

広大な敷地を有する、UNAM は大学都市とも呼ばれ、無料のバスが学内を循環しています。

中央図書館の壁画が 2007 年に世界文化遺産に登録されたこともあり、観光地としても有名です



人類学博物館の敷地内では、ベラクルス州のトナカ族伝来の儀式、ボラドーレスを見ることが出来ます。ボラドーレスももとは宗教儀式で、干ばつに苦しむ人々が雨乞いのために行ったことが始まりとされ、その歴史は 1000 年以上遡ります。2009 年には世界無形文化遺産にも登録されました。高さ 30m の支柱の周りを飛ぶ 4 人は、水、火、風、大地に対して、先端で笛を吹く人は太陽に祈りをささげているそうです。ちなみに、ボラドーレスはスペイン語で‘飛ぶ人’という意味です。

国立人類学博物館

友人と一緒に、メキシコシティ西部にある、国立人類学博物館へ出かけました。国立人類学博物館は世界でも有数の規模と内容を誇る大博物館で、メキシコ国内に点在する遺跡の壁画や発掘物等は、遺跡内ではなく、全てこの博物館に収容されています。

博物館内では、高校生が授業の一環として観光客に展示物の説明をしており、その知識の豊富さに驚きました。



国立人類学博物館では、マヤ文明やアステカ文明などの様々な文明の出土品を鑑賞することができました。展示物を通して、メキシコの歴史、文化や文明間のつながり、それぞれの文明の価値観や芸術観を学ぶことができ、とても面白かったです。

メキシコに来る機会があれば、ぜひ訪ねてみてください。